

令和6年度 自衛消防隊研修会結果

〔開催日〕 令和6年9月6日（金） 9：00～16：20

〔場 所〕 茨城県立消防学校 屋内訓練場（体育館）、屋外訓練場（校庭）

〔講 師〕 4消防本部 8名

（那珂市消防本部、大洗町消防本部、鹿行広域事務組合消防本部、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部）

〔指導員〕 4事業所 5名

（日本原子力研究開発機構原子力科学研究所、日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所、日本原子力研究開発機構大洗研究所、日本原子力発電株式会社）

〔参加者〕 協定加盟10事業所から18名参加

（日本原子力研究開発機構原子力科学研究所、日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所、日本原子力研究開発機構大洗研究所、日本原子力発電株式会社、量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所、広域財団法人核物質管理センター、三菱原子燃料株式会社、MHI 原子力研究開発株式会社、積水メディカル株式会社、原子燃料工業株式会社）

〔訓練概要〕

（1）座学

① 自衛消防に関する事項（消防概論）

（2）要素訓練

① 空気呼吸器等の装着訓練

② 傷病者の搬送方法及びロープワーク訓練

③ 消防自動車からの放水・吸水訓練

（3）総合訓練

指揮隊（含支援隊）、消火隊、救助隊に分かれて、実放水を含む火災防御・救出訓練を実施（想定：平屋事務所より出火、延焼中。職員2名逃げ遅れ。）

令和6年度原子力事業所安全協力協定自衛消防隊研修会を、2年ぶりに茨城県立消防学校で開催した。

（令和5年度は台風接近に伴い中止）

今年度で16回目となる本研修会は、参加者を自衛消防隊の初心者を中心に募集した。

午前中は、主催者である安全協力委員会委員長の開会挨拶に続き、体育館で座学（自衛消防に関する事項（消防概論）、体育館及び校庭で要素訓練（① 空気呼吸器等の装着訓練、② 傷病者の搬送方法及びロープワーク訓練、③ 消防車からの放水・吸水訓練）を行った。

午後は直射日光が降り注ぎ気温が上昇したため、車庫内の日陰を最大限活用して車庫付近で総合訓練を行った。訓練は、参加者があらかじめ消防関係車両

3台に分乗し、火災現場に到着（想定）したところから開始された。指揮隊の下命を受けて、救助隊による建物内からの逃げ遅れ者（人形）の救助、消火隊による放水など、実際の火災現場に近い形での訓練を行った。

閉会式では、「茨城県防災・危機管理部 原子力安全対策課原子力防災調整監 戸澤様」から次のご講評をいただいた。

原子力関連施設は本県にとりましても社会的経済的にとりましても影響が大きいものである。但し、裏を返せば、一旦事故を起こすと地域に大きな影響を及ぼすものとなる。そのため原子力関連施設の防災対策、安全対策の重要性は他の事業所にもまして求められている。火災を発生させない事が最も重要である事は言うまでもないが、万一の際には被害を拡大させない事が重要である。火災拡大防止のためには初動が重要であることは言うまでもない。そのため自衛消防組織の役割は重要である。こうしたことから東海ノアの皆様が高い意識を持って定期的に火災防御の知識及び技術の習得に努められていることに心強く感じている。本日の訓練においても真摯に訓練されていることに感銘を受けた。今後とも各事業所におかれましては、より一層の初期消火の充実とともに、施設の安全対策の強化に努めていただきたい。

茨城新聞社の記者が取材に来られた。



(開会式)



(座学)



(空気呼吸器装着訓練)



(傷病者搬送方法訓練)



(ロープワーク訓練)



(放水・吸水訓練)



(総合訓練 指揮隊)



(総合訓練 救助隊)



(総合訓練 消火隊)